

令和4年9月25日

南の風 454

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

久しぶりの通常号です。441号から『チームづくりの考え方』から、練習の分析や指導者の役割等について書いてきました。今回は、『選手にとって良い指導者とは』というテーマを取り上げます。

鈴木 良和氏（日本女子代表チームアシスタントコーチ、エルトラック株式会社代表）は、著書の中で、「良いコーチ」の条件を、「魅力があるコーチ」と言っています。以下、鈴木氏の考えを交えながら進めます。鈴木氏には、ミニバス、中学校選手のクリニックを始め、個人的にも大変お世話になっています。

鈴木氏は魅力とは「厳しさ」と「やさしさ」という、相反する二つのものを手にしているコーチの方が、ただ厳しいだけ、ただやさしいだけのコーチより魅力的だといいます。また、「まじめさ」と「ユーモア」の両面をもっているコーチの方が、まじめなだけ、ふざけているだけのコーチより魅力的だといいます。魅力的なコーチになるためには、ANDの才能が重要になるとも言います。

ANDの才能とは、「さまざまな側面の両極にあるものを、同時に追求する能力」と定義されます。例えば、AかBかどちらかを選ぶのではなく、AとB両方を手に入れる方法を見つけることです。

鈴木氏が言う「厳しさ」と「やさしさ」、「まじめさ」と「ユーモア」を合わせもつコーチが魅力的であるというのは、正にANDの才能であると言えます。

さらに鈴木氏は魅力的な人物の共通条件として、エネルギーがあることを挙げ、魅力的な人ほど、熱量の大きさ、情熱と言えるものをもっていると言います。

私も鈴木氏の考えに賛同します。最近「褒めて選手を伸ばす」ことが、よい指導法として取り上げられることが多いです。果たしてそうでしょうか？

私は「褒めて選手を伸ばす」ことを否定はしません。しかし「叱るべきときはしっかり叱る」ことが必要だと思います。コーチの思い通りやらないから叱る、あるいは失敗したから叱るのではなく、大切なことは、「何に対して叱るのか」ということです。私は叱るときの基準にしているのが、「選手の取り組み方や態度」です。ここがいい加減であったり、ルールを守れなかったりした場合はしっかり叱ります。このことは、「〇〇〇をしたら叱られることになるよ」と予め選手に伝えておきます。

もう一つは、「同じミスは何度も何度も繰り返し、改善点を示しているのに取り組もうとしないとき」です。バスケットボールにミスや失敗はつきものです。一度や二度のミスや失敗を叱っているのは、選手は萎縮してプレーできないと思います。改善点は個人的に、あるいはチームプレーの中で示します。にもかかわらず、取り組もうとしないでミスを重ねた場合は叱ります。選手が取り組もうとして失敗やミスをしているときは、応援して寄り添い、できるように支援します。

私は、鈴木氏が言うANDの才能は、U15のバスケットボールのコーチにとって、極めて大事なファクターだと思います。

最後に、私が目指すコーチ像について書きます。「選手が成長するために、しっかりとした考え方を提供できるように、知識やスキルを身につけ、選手自身が『成長したい』と思うようなコーチで在りたい」と思っています。目標に向けて日々、研鑽し努力を続けるほかありません。